



キャッシュレスについて

中京大学 都丸ゼミ

研究目的

- 世界の「キャッシュレス化の現状」と、韓国・中国・アジア・欧米（ヨーロッパ）などの海外と日本の「キャッシュレス決済事情」についての比較をする
- キャッシュレス化が遅れている日本の現状についても考察する
- 日本がキャッシュレス化をさらに推進するべきか検討する
- 日本がキャッシュレス化を推進するべきだと考えた場合、どのような方法で推進するのが最善だと考えられるのか、私達の意見を提案する

日本のキャッシュレス化普及の現状

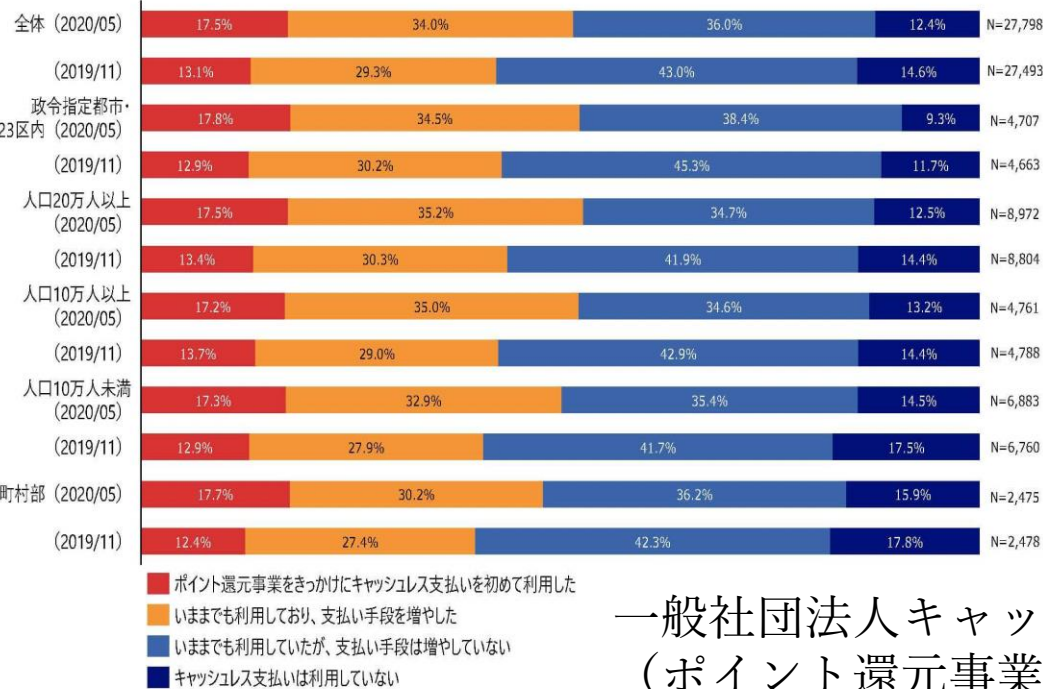
- 日本のキャッシュレス決済の比率は20% → 主要国では40～60%
- キャッシュレス社会への転換は遅れている
- スマホ決済は若い世代ほど高い、中高年はクレジットカードを使っている。
- 主な決済方法はクレジットカードによるもの
- 中国 QR コード決済が普及 韓国：キャッシュレス決済の比率は96.4%

日本のキャッシュレス化普及の最新情報

還元事業による支払手段の変化 地域区分別

どの地域区分でも5割前後の消費者が、還元事業をきっかけにキャッシュレスを始めた又は支払手段を増やした。また、どの地域区分でも、2019年11月からその割合は増加している。【※全体では約4割から約5割に増加】

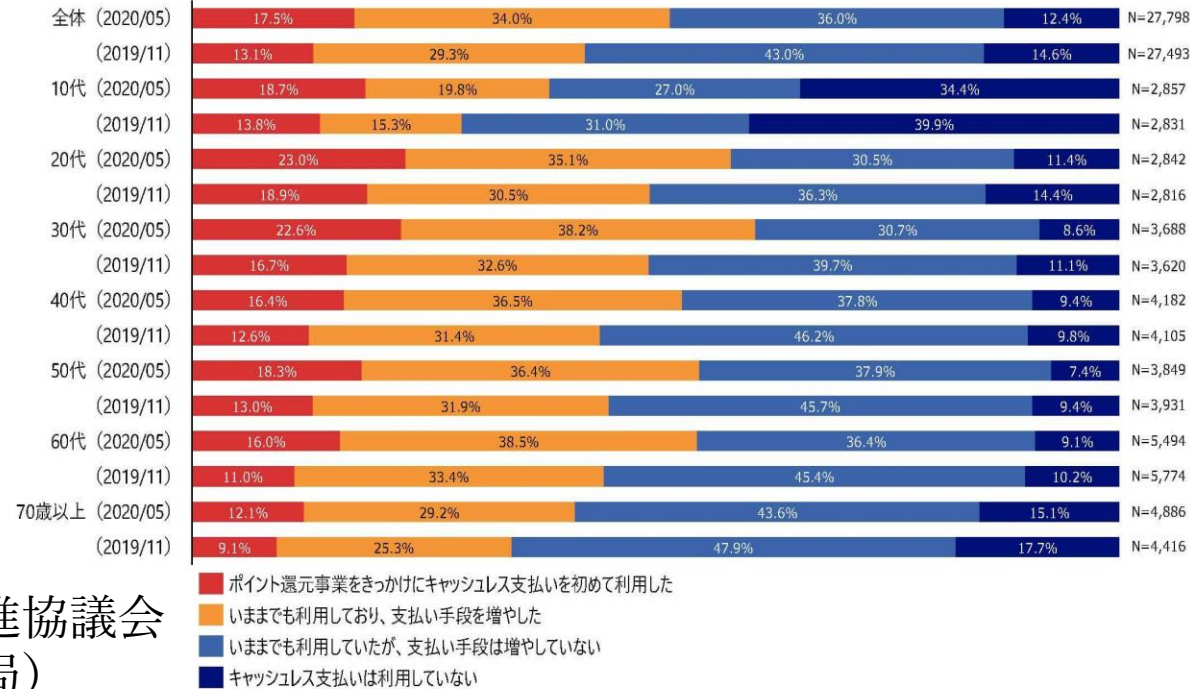
【設問文】キャッシュレス支払いの利用時に最大で購入額の5%のポイントが還元されることで、キャッシュレス支払いの利用について変化はありましたか。
最もあてはまるものをお知らせください。



還元事業による支払手段の変化 年代別

20代～60代の約5割以上、10代・70代以上の約4割の消費者が、還元事業をきっかけにキャッシュレスを始めた又は支払手段を増やした。また、全年代で、2019年11月からその割合は増加している。

【設問文】キャッシュレス支払いの利用時に最大で購入額の5%のポイントが還元されることで、キャッシュレス支払いの利用について変化はありましたか。
最もあてはまるものをお知らせください。



一般社団法人キャッシュレス推進協議会
(ポイント還元事業補助金事務局)

「キャッシュレス調査の結果について」

https://cashless.go.jp/assets/doc/200630_questionnaire_report.pdf

目標・メリット

- 2025 年 6 月までにキャッシュレス決済比率を 4 割（令和元年 6 / 2 1 閣議決定）
- 消費者の利便性の向上
- 買い物の簡略化、消費履歴の管理が簡単、店舗の効率化、インバウンド需要の見込み、データの利活用防犯対策
- 現金管理の手間の削減 → レジ締め作業時間 1 台 25 分、店舗平均で 1 日 153 分
- 海外と比較した場合、すでに海外の先進国の多くで「キャッシュレス化」の対応が進んでおり、海外進出においてもキャッシュレス決済は必須のツールになりつつある

キャッシュレス化の定義

キャッシュレス決済とは ～ 主なキャッシュレス決済の例



【参考】QRコードの種類

	店舗提示型 お店がコードを提示	利用者提示型 消費者がコードを表示
動的 決済の度に異なるQRを表示	お店側がQRを提示 (金額も決済の度に表示) 消費者は読み取り	消費者がQR/バーコードを表示 ①バーコード ②QRコード お店側は読み取り
静的 お店毎に常に同じQRを表示	お店側がQR (紙) を提示 (金額は表示されず) 消費者は読み取り (金額を打ち込み)	ほとんど存在しない

図表 1 キャッシュレス支払手段の例

	プリペイド (前払い)	リアルタイムペイ (即時払い)	ポストペイ (後払い)
主なサービス例	電子マネー (交通系、流通系)	デビットカード (銀行系、国際ブランド系)	モバイルウォレット (QRコード、NFC等) ※プリペイ、ポストペイ可能
特徴	利用金額を事前にチャージ	リアルタイム取引	リアルタイム取引
加盟店への支払いサイクル	月2回など	月2回など	即日、翌日、月2回など様々
主な支払い方法	タッチ式 (非接触)	スライド式 (磁気) 読み込み式 (IC)	カメラ/スキャナ読込 (QRコード、バーコード) タッチ式 (非接触)
【参考】2016年の民間最終消費支出に占める比率 (日本国内)	1.7%	0.3%	18.0%

(出典) 検討会事務局資料 (第五回)

キャッシュレスへの課題

- 現金利用のニーズがある、現金が普及して入手しやすい
- 治安の良さ
- キャッシュレス決済利用に維持・運営コストがかかる
- セキュリティーの問題、資金化までのタイムラグ
- 使い過ぎの心配

問題点

諸外国と取引する際にインターネット取引になる可能性が高い。

インバウンド面でも海外とのズレが生じてしまう

キャッシュレス決済のシステムが進んでいないと取引間で摩擦が生じる可能性がある。

最悪日本が対応していなかった場合取引自体ができない可能性がある。

意見

キャッシュレス化をさらに推進
すべきだと考える

- 現状から、見えるように諸外国と比べるとキャッシュレス化が遅れている現状がある。政府は 40% までキャッシュレス化を推進する目標を掲げている。しかし、クレジットカードの利用以外は大きく伸びていない
- キャッシュレス決済利用額比率では 1 位は千葉は 48.51% に対し 47 位佐賀県は 31.94% と大きく開きがある。
- 隣国である中国や韓国はいずれもキャッシュレス化で先進しており、その技術など日本との違いを考え、導入する必要がある。



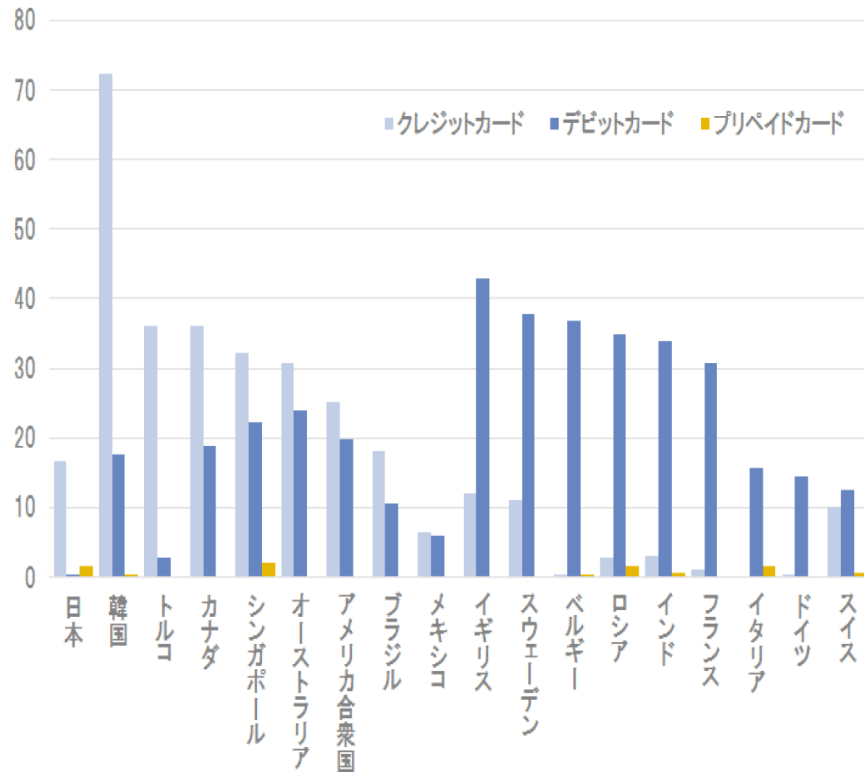
現金中心 Cash Centric 1 デジタル移行 Digitally Transitioning 2
デジタル成熟期 Digitally Maturing 3 先進的 Digitally Advanced 4 先導者 Digital Leader 5

VISA 「Cashless Cities Realizing the Benefits of Digital Payments」 から

<https://usa.visa.com/dam/VCOM/global/visa-everywhere/documents/visa-cashless-cities-report.pdf>

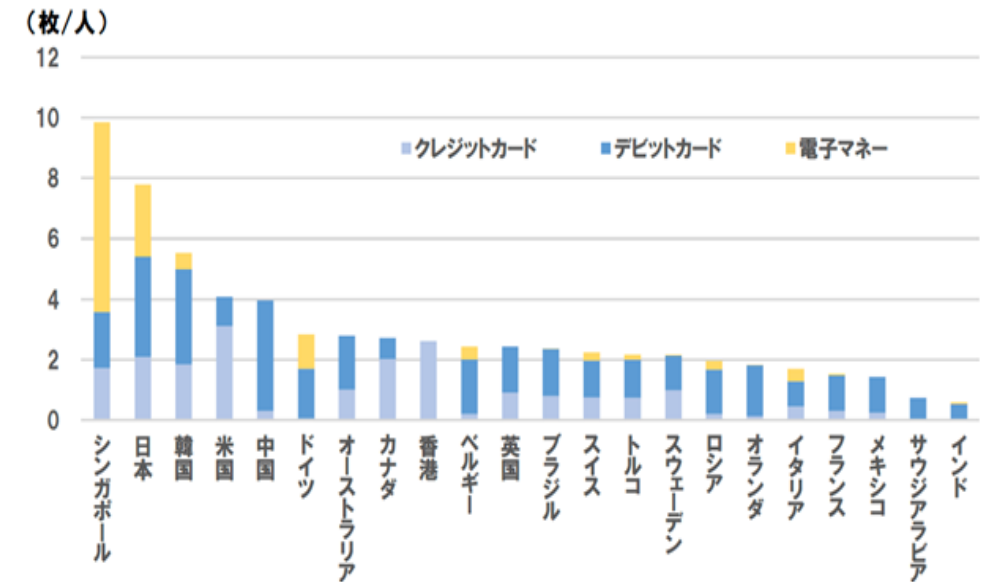
海外比較①国別キャッシュレス支払手段

図表 5 各国のキャッシュレス手段別民間最終消費支出に占める割合（2015 年）



(出典)一般社団法人日本クレジット協会「日本のクレジット統計」より NTT データ経営研究所作成

図表 6 各国の種類別カード保有枚数（2015 年）



- (注) 1. 一枚のカードで複数の機能が利用可能な場合、重複して計上されているほか、国・地域によっては入手出来ない一部カードの計数が欠損している。
2. デビットカードには、ディレイドデビットカードを含む。

(出典) BIS 「Statistics on payment, clearing and settlement systems in the CPMI countries -Figures for 2016」より NTT データ経営研究所作成

経済産業省 **「キャッシュレス・ビジョン」**

<https://www.meti.go.jp/press/2018/04/20180411001/20180411001-1.pdf>

海外比較②中国

現状

- QRコード決済が主流となっており、「Alipay（支付宝）」と「Wechat Pay（微信支付）」が代表的
- 現金を使用している人は少数
- Eコマースでも利用が可能となっており、今後もEコマース市場拡大により利用者は増加することは間違いない

銀聯の取り組み

- 中国国内の 80 強の金融機関によって共同で設立され、金融機関間の決済システムやルールの標準化、銀聯加盟の金融機関同士をオンラインで結ぶ決済オンラインネットワークの整備を行った
- 業種区分に応じた加盟店手数料は、社会インフラとしての役割を担う医療、教育、社会福祉、介護等では 0%であり、その他の業種においても最高で 0.55% に設定されている

海外比較③

韓国

- 韓国のキャッシュレス決済比率は世界で最も高く、2016年には96.4%
- クレジットカードの利用が多い
- レジットカード利用額の20%所得控除や宝くじの権利を付与、さらに年商240万円以上の店舗でのクレジットカード対応の義務化を政府が行った

シンガポール

- 2025年までに小切手の使用0を目指し、現金の使用機会を減少させる政策を打ち出した
- モバイル個人送金が可能な「ペイナウ」では、24時間個人送金が可能になっている
- 政府は、QRコード統一規格「SGQR」を導入した

海外比較④

アメリカ

- アメリカにおける全決済額のキャッシュレスの比率は2016年には46.0% 日本は19.8%
- アマゾンゴーというレジがないコンビニが利用されている
- キャッシュレス化が進んでいる一方、経済格差によってクレジットカードや銀行口座を持つことができない低所得者もいる

オーストラリア

- 2011年に2つの大手スーパーでTap and Goと呼ばれるタッチ決済システムを導入
- プリペイド式交通系ICカードOpal Card促進のため、54種類の切符が廃止されている
- Roy Morganによる調査によると5人に4人が毎週使っている事が分かっている

海外比較⑤

スウェーデン

- 金融機関と**政府**がキャッシュレス化を推進
- 小切手からデビットカードへの移行
- 犯罪対策による現金取り扱いの廃止
- 個人間送金・支払いサービスSwish
- 実店舗の現金取り扱い拒否

インド

- **政府**が高額紙幣の取り扱いを廃止し、キャッシュレス化を推進
- 公共交通機関での日現金決済の導入やB to Cでのモバイル決済の普及を進めている

海外比較から日本が学ぶべきこと

- キャッシュレス化が進んでいるとされている国はどの国も**政府や企業団体**が進んで支援している
- 日本は、キャッシュレス決済の種類が他国と比べて多く、使うのが人によって違い、導入にコストがかかりすぎるため店舗側も導入しずらいと考えられる
- 日本政府が1種類の決済を推進し、そこに力を入れて支援することでさらにキャッシュレス化が進むと考えられる
- 私達は、政府が支援すべき決済方法はQRコード決済だと考える

QRコード決済

- 中国で増加中の決済方法
- 手数料を取らない場合もあり、専用端末の用意は不必要で、中国では屋台でも使われている。
- リアルタイムペイに当たり、問題点の資金化までのタイムラグへの解決策になる
- 世界での QR 決済比率： 中国 65%、イギリス 23%、ドイツ 20%、アメリカ 20%、日本3%

参考文献①

- 野村総合研究所「キャッシュレス化推進に向けた国内外の現状認識」より
https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/shoryu/credit_carddata/pdf/009_03_00.pdf
- 一般社団法人キャッシュレス推進協議会（ポイント還元事業補助金事務局）「キャッシュレス調査の結果について」
https://cashless.go.jp/assets/doc/200630_questionnaire_report.pdf
- 経済産業省「キャッシュレスの現状及び意義」
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/cashless/image_pdf/movie/about_cashless.pdf
- 経済産業省「キャッシュレス・ビジョン」
<https://www.meti.go.jp/press/2018/04/20180411001/20180411001-1.pdf>

参考文献②

- 世界のキャッシュレス普及率ランキング | 海外と日本の「電子マネー普及率・決済事情」を比較
<https://www.digima-japan.com/>
- MASTERCARD.US 「Press Releases Tap and Go Technology Reigns in Australia」
<https://newsroom.mastercard.com/asia-pacific/press-releases/tap-and-go-technology-reigns-in-australia/>
- AUSTRALIAN FOOD NEWS 「Coles and Woolworths to introduce “contactless payment” for groceries」
<https://www.ausfoodnews.com.au/2011/12/08/coles-and-woolworths-to-introduce-%E2%80%9Ccontactless-payment%E2%80%9D-for-groceries.html>
- 中沢潔米国におけるキャッシュレス化の現状
<https://www.ipa.go.jp/files/000073466.pdf>